

いのちと地域を守る



【参加し】災害に備えて、町内会の婦人部の役割が重要になると認識した。高齢の部員の参加を促し、活動に巻き込むのが課題だ。



【災害時の不安】通行止めになれば、病院や駅がをしてもかうつけの病院を受診できない。消防車が来られるのが分からぬので、大きな火災も心配だ。



【災害への備え】非常時や孤立状態に陥った場合、高齢者の見守り活動が大切だ。健康管理・留意・孤独感を訴えなくなってしまった。



【孤立して困ったこと】母の通院のため、秋田・山形回り3時間かけて鳴子に行った。病院に着いても午前中受け付けは終わる。午後の診療を受けてまた3時間かけて帰ると一日がかりになった。



【災害の教訓】孤立した際、買い物や金融機関の利用などができず、生活に大きな支障があった。教訓として、生活必需品を多めに用意したり、簡易ガスコンロを備えたりと家庭で対策を取りている。

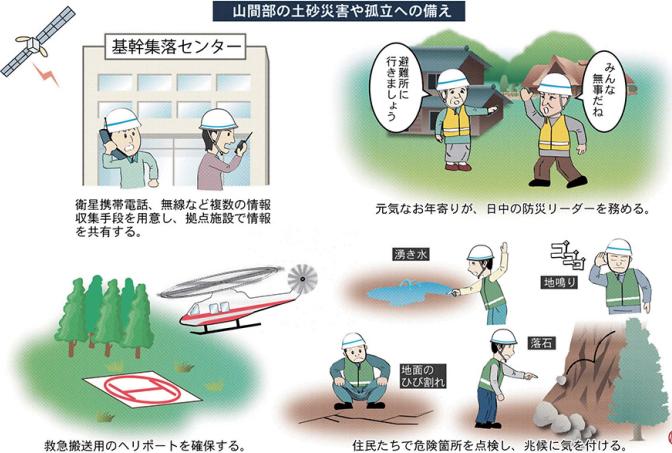


【災害時の不文】自家が土石流の發生危険区域に入っている。万が一に備えてテープは用意したが、他にどんな対策ができるのが悩む。正しい情報の収集と伝達を心掛けている。



雪でぬかる急勾配の通路を、ロープにつかまりながら下りる住民
—2007年2月10日、大崎古墳群温泉大崎

地域守るバイパス切望



情報収集手段の確保急務



減災・復興支援機構理事長

東日本大震災の教訓を生ひなすため、北河新義社は地域住民へ心と精神を贈る巡回・演説巡回「ルーンショウ」「むすび塾」を開いています。名前は、地元の人々へのつながりを強め、貢献・減災に繋げていきたいとの思いを込めています。

今回の「むすび塾」は1月1日、宮城県女川町の女川中で開催します。